

グロリオサにおけるアザミウマ類の 種構成とその発生消長



写真 被害の様子

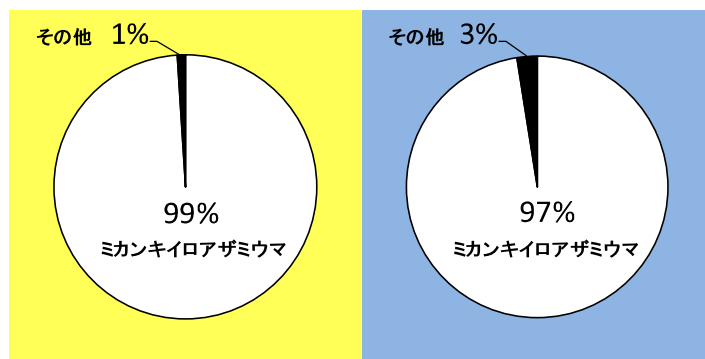


図1 粘着トラップに付着したアザミウマ類の割合
左:黄色トラップ 右:青色トラップ

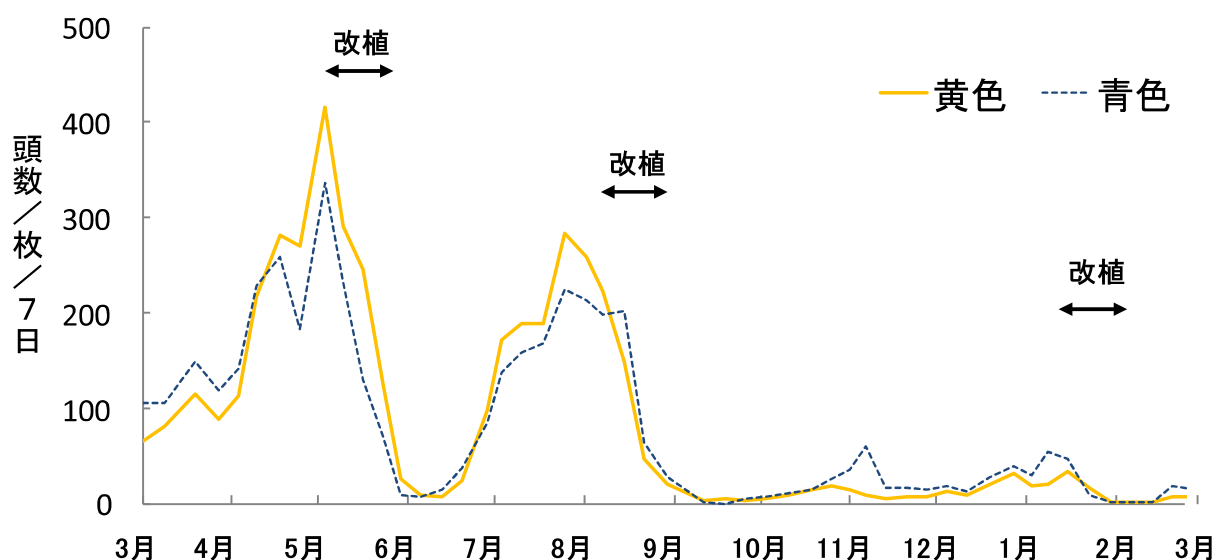


図2 グロリオサ栽培ほ場でのミカンキイロアザミウマの発生消長

注)調査期間:平成29年3月~平成30年3月

グラフは概ね7日間設置した粘着トラップに付着した1枚あたりの頭数(2ほ場の平均値)

グロリオサは高知市で国内の7割以上が生産されている高知県の特産花きです。その花卉にアザミウマが傷をつけて品質が低下することが問題になっていますが、原因となるアザミウマの種類や時期別の発生量などは詳しく調べられていませんでした。

今回、主要品種の‘サザンウィンドウ’を栽培する2ほ場で粘着トラップによる調査をした結果、発生しているアザミウマの97%以上がミカンキイロアザミウマであることが判明しました(図1)。

また、その発生量は4~5月と7~8月に多く(図2)、改植前に多く発生していたミカンキイロアザミウマが改植時に激減することから、このタイミングで、ほ場外へ移動している可能性が示されました。

ほ場外への移動は他のほ場へ侵入するリスクを高めるため、適期防除の指針作成や、その他の防除技術の開発にこれからも取り組んでいきます。

(昆虫担当 田村悠 088-863-4915)